

松江地方における紐落し行事調査研究

(第一報)

福田房代
荒井俊子

一、調査の目的

戦時から戦後にかけて圧縮を余儀なくされた我々の衣生活も、物質の廻りが豊富となり、生活も安定するにつれて、次第に膨張する傾向にあることは生計費の中での被服費の占める比率の推移を見ても明らかである。

この傾向が当地方の年中行事の中でも特に家計に大きな脅威を与え、るといわれる紐落し行事に対する影響の程度を知るためと、諸行事の盛衰と封建性とは密接な関係を持つといわれる点に鑑み、行事の実態調査によつてこの辺の事情を考察し、健全な家庭生活設計への基礎資料とすることを目的として、この調査を計画した。

二、松江地方における紐落し行事の概要

親が子供の生長を喜びその子の幸を、神に祈念し感謝して祝う習慣は、七五三の祝、男子の袴着の祝、女子の帯の祝、或いはオビトキの祝、カツギゾメ、等の行事として全国各地で行われているが、当地方のヒモオトシもこれ等と同じ親心から行われている行事である。その

形式は地域的に多少の差異はあるが、大体次の様なものである。

1、期日 十一月十五日

2、祝をする子供の年令 男女とも四才

3、祝儀の内容

(1) 子供のため当日着用する祝着を新調する、この費用は、子供の母親の実家で負擔する習慣である。

(2) 近親者、隣家、知人からもそれ／＼子供の衣類、身の廻り品等を贈つて子供の生長を祝う。

(3) 祝日の前日、祝物を贈られた家へ、祝返しを贈る。普通には赤飯、或いは祝餅等を贈る。

(4) 祝の当日、祝着を着飾つた子供は、父親や母親に連れられて、産土神に参詣し、引きつゞき祝物を贈られた家庭へ礼廻りをする。

(5) 礼廻りを受けた家では、更に菓子玩具等相当なものを用意してこれを与える。

- (6) 当日家庭では近親者、隣人を招待して祝宴を開く。
 - (7) 礼廻りを受けた家では後日答礼のため訪問をする。
- 註 この形式についての封建性は特に市街地に強い。

三、調査の方法

(一) 調査の対象 松江市

松江市は人口約八万八千、世帯数約一万九千、周辺農村の合併によつてふくれ上つた中都市である。

生産企業の見るべきものは少ないが、近年観光都市としての整備に重点をおいて、市政の運営がなされている。

直接、戦争の被害を受けていない都市だけに、市民の心も穏やかで、昔ながらの習慣も数多く温存され、家庭生活にも封建的色彩が濃い。

(二) 調査の方法

(1) 旧市内、及びその近接農村に於ける紐落し祝該当の子供を持つ、主として中程度の家庭から、五十世帯を有意抽出により調査した。

(2) 職業の点からは農業、商業、給料生活者の数がほぼ均分する様にした。

(3) 調査の形式は調査用紙を送付して各自記入の方法を取つた。第二表（聞込調査のもの）であつたが、被調査者が嫌う傾向が見えたので記入方法に変更した。

(4) 農、商業者の中には発表を好まぬものもあつたので回答者の数は第一表のようになつた。

第一表

	回答者数	未答者	回答数
給料生活者	18		0
農業	12		4
商業	7		9
計	37		13

第三表 職業別に見た平均収入

	一年の平均収入	全世帯平均
農業	152,500	214,042
給料生活者	236,692	
商業	236,667	

1、世帯に於ける収入
中小工商业者の経営不振については、社会問題としても種々論議されているが、この調査を通して見たところでは（少い資料ではあるが）商業が最高であり、農家のそれはその62%に過ぎない。

第二表 調査表

紐落し行事の事態調査		島根大学教育学部 被服研究室		
住所				
職業（生活の基礎となるもの）				
家族構成				
家の年収の概算				
子供の性別	男 女（長男 次男 長女 三女）			
祝のために要した費用の概算	祝着及び附属品費（実家から贈られた場合はその推定価格）	計		
	雑費			返礼用費
				客招待費
				宮参り費
	その他			
祝着はどちらで作つたか	自宅 実家 その他			
祝着の型式	洋服 新調 その他 和服 新調 その他			
行事の感想	1. 出来るだけ盛んに続けたい。 2. なるべく簡素にして続けたい。 3. 極簡素にして続けたい。 4. 廃止した方がよい。 5. その他（例えば祝着の型式とか行事の中で改良したい点等。）			

四、調査 （一）経費に関する調査

2、経費の支出状況

行事のための支出は全世帯平均一六、二二〇円となり一ヶ年の収入に対する比率は7.55%となる。その最大最小の開きは第四表の様に甚だしく大きい。

収入に対する比率の高い例は長男の場合に多く、低い例は二、三男、若しくは二、三女の場合に多い。

更にこれを職業別に見ると第五表の様で商家の支出が他に比して著しく高率を示して居ることが目立つて居る。

第四表 支出の最大・最小

	支出総額	一ヶ年の収入	収入に対する支出の比	職業	子供の性別
最大	47,000円	160,000円	29.38%	商	女
最小	4,100	120,000	3.42%	農	男

第五表 職業別に見た支出の状況

	支出の平均	収入に対する支出の比	最大	最小
農業	11,356円	7.44%	20,000円	4,100円
給料生活者	14,308	6.11	40,000	5,700
商業	37,433	13.37	50,300	15,500

第六表 支出の内訳

	支出平均	支出総額の平均に対する比	最大	最小
祝着及び附属品購入費	8,854円	54.62%	40,000	1,000
祝宴費	4,692	28.95	30,000	0
返礼費	2,358	14.55	10,000	0
その他雑費	296	1.83		

3、支出の内容

祝着の新調に多額の支出を要するであろうことは、ほとん想像したこ

とであるが、その他の費目、特に宴会費に多額の経費がかけられていることは予想外であった。

これは両親や家族の行事に対する考え方の現れとも見るべきで、子供のための祝が大人のものとなり、その優越感を満足させるために派手さを競い益々経費の膨張を来す結果となるのであろう。

(一) 祝着の調達について

祝着はその程度に差こそあるが、殆んど全部が第八表のように新調している。そうしてその費用は、前述のように、子供の母親の実家で負擔するのが従来からの風習である。

したがって娘を結婚させてホツとした父母も外孫の誕生と共に、またく引き続き経費の支出に苦勞しなければならぬ。即ち産着、宮詣着、第一回の誕生日のための祝着、紐落しの祝着と、毎年息つく間もない程の支出である。「娘三人持てば七蔵倒れる」とはこの辺の事情をいつたものと思われる。

しかし調査の結果は第九表のように、全体の約半数は自宅で用意し、1/3は実家から、1/10は両方共同で負担するという新形式をとつてゐる。自分の腹が痛まなければ出来るだけ豪華なものにと望むのは人情であり、実家の父母は又娘可愛さから無理をするということになり、ここにこの行事をますく派手にする一つの原因があると思われる。尙この傾向は、長男の場合に特に目立つてゐるが、このことは将来の家督相続人を偏重するという従来の考え方がまだなかくに強い根を張つてゐることを物語るものと思われる。

(二) 祝着の型式について

当日のため用意した祝着の型式は調査の結果によれば第七表のように、男子は全体の80%が洋服、女子はその72%が和服である。しかし和洋両方を用意したのも当日は、男子は洋服、女子は和服を着用したものと考えられるので結局男子は100%が洋服、女子は約90%が和服で神詣をしたことになる。

第七表 祝着の型式

	男		女	
和 服	0	0	13	72%
洋 服	15	80%	2	11%
和洋両方	4	20%	3	17%

第八表

		新 調	その他
男 子	長 男	14	0
	次・三男	5	0
女 子	長 女	6	0
	次・三女	9	3

註 他は姉のものを流用

祝着調達の様式が少しでも明るい方向へ向つて来たことは喜しいことである。

四 行事についての父母の感想

行事についての感想としては、経費の点からその行き過ぎの弊害を一樣に認めているけれどもこれを不要なものとして積極的に廃止してしまつた方がよいと考えるものはなし。

第九表 祝着調達の方法

1 自 宅 で	19	52%
2 実 家 から	12	32
3 共 同 で	4	11
4 両方でそれぞれ	2	5

第十表 行事についての父母の感想

出来るだけ盛んに続けたい	0
なるべく簡素にして続けたい	19
極簡素にして続けたい	18
廃止したい	0

子供の生長の二段階として、子供自身にも或る程度の自覚を持たせる

機会となり、又美しく楽しい思い出ともなるものとして、多少の苦しみはしても祝つてやり度いのが親心であろう。要はその程度が問題である。

見栄を去り、不要の支出を極力圧縮して、どこまでも子供本意の簡素なものとしたいというのもすべての親の念願である。しかしながらこの念願も、社会の風習と、古い世代の思惑に引きづられて、本意なくも初志を曲げなければならなかつたと嘆く若い両親もあつた。

む す び

この調査を通して注目すべき点は、この紐落し行事に膨大な費用を支出していることである。即ちその額は年収入に対して七・五五%に相当する。終戦以来家庭経済の不如意に主婦のやりくりは容易でないのが今日の家庭生活の現状である。従つてこの一つの行事だけでも、これが家庭生活の平和をはむ大きな痛ともなる。にもかかわらず近年この行事がますます盛大に行われるということはなにを物語るのであるうか、これは思うにこの地方の封建的的民族性がまだ中々大きな根をはつているためではあるまいか。

そも／＼この行事の起源が、子供の慈なき成長を神に感謝し、将来の発展を祈り、なお子供に一つの自覚を持たせるといふ意味に於てなされるものであるとすれば少なくとも親としては虚飾虚礼を去り、形式方面を重大視するよりは精神の籠つた、清素で明るく楽しくゆかしい、祝事とすべきである。そのためには因襲的伝統の風習の殻を切り抜けて近代的社会情勢の中で沐浴し新らしく頭の切りかえをし

てこそ、始めて進歩的現代的な生活の第一歩を踏み出すことが出来る
 と思う。

こうした考え方から割り出して従来の行事にマスを入れこれを善処
 するには、

第一 経済的に無理のない仕度をする

第二 祝宴の肅正

第三 雑費の切りつめ

等の問題がとり上げられる。

即ち第一の問題については、衣裳の華美なものを新調することは、

子供のよるこびそのものよりも親の虚栄心の強い所からである。こゝ
 にも抜けきらないものが裏づけられている、これについては収入との
 バランスを考え新らしい視野に立つて計画すべきである。第二の問題
 は祝宴を派手にして、見栄を張りたいという親の気持と子供にとつて
 は又とないこの時であるから少しは無理をして、といつたこの二
 つの気持が働いているがこれも極く近い親戚のみに止めて簡素な祝盃
 にしたいものである。第三の問題については従来よりも次第にこの支
 出がかさむ傾向がある。例えば宮詣り或いは祝品を送られた家々への
 礼廻り等に自動車を利用するためにその経費は相当の額になるのであ
 る。こうした礼廻りは廃止してもよいのではあるまいか。祝着の新調
 もこのためにますます虚飾を張ることにもなる。もし儀礼的見地から
 これを行うとするならば、なるべく徒歩或いは父親の自転車に便乗さ
 せることも経費削減の一つの方法である。

以上の如く一つ／＼を計画的に考慮すれば従来の費用を半減するこ
 とが出来る。この行事はいつ迄も続けたいという回答が一〇〇%であ

つたがこの行事本来の主旨から言えば続けてやることも意義のあるこ
 とであるから、余り憶却でなく所謂気軽に心からよるこぶことの出来
 る祝事にしたいものである。

かゝる観点から先づ出費の大部分を占める衣の面について簡素にと
 考えた一例を上げて見る。(次表参照)

1 男児(既成品洋服)

名称	数	価格
上着	1	2,000円
ズボン	1	2,000
帽子	1	150
靴	1	400
ソックス	1	35
計		4,485

2 (A) 女児(和服(価格は三月現在に於ける
 松江市市の小売販売価格である))

名称	数	価格
上着(交織友仙)	1反	1,200円
裏(人絹紅絹)	6m	630
身頃(ネル)	1.50m	170
袖(無双人絹縮)	5m	390
長襦袢(半衿(人絹白地))	1	50
帯	1	600
結	1	100
帯	1	300
袋	1	75
髪飾(リボン)	1	70
下駄(塗)	1	150
計		3,735

この試案のねらい
 は、男女児共に洋服と
 し簡素にしかも近代美を持たせたい
 う点である。洋服は子供の身体の発
 達を助ける諸条件にてらし最適である
 ことはいうまでもなく又後日の着用頻
 度も多くすべての点から実用価の高
 いものであるからである。又子供の衣服
 は子供の成長発達が甚だしいため長く
 着用することは不可能である点から上

(B) 評服(既成品)

名称	数	価格
ワンピース	1	1,030
オーバースーツ	1	2,000
スリッパ	1	70
下	1	100
靴	1	400
髪飾(リボン)	1	70
計		3,640

等の地質を用いる必要なく、現在豊富に市販されて価格も低廉な化粧を用いたものである。

然しこの行事本来の主旨によつて紐を落して帯を締める、又は帯直しというその意を表現することになれば、やはり日本古来の伝統である和服に帯という欲求も考慮にいれなければならないと思つたので和服の試案もあげて見たのである。がこれこそ着用頻度は小であり実用的でない点からやはり地質を上等にする必要がないので交織又は人絹にして格安にした。

上着のおもてに一反を使用したことは後の利用を考慮に入れたためである。即ち大人になつてはこれを長襦袢に更生して着用させるつもりである。

帯は兵子帯に改めたい。がやはり行事の名に因んで紵目のある堅い帯という考え方もあるので不経済と思つたが結帯が簡便であるのでそれを使うことにした。出来れば無地の人絹に母のゆかしい手芸のアツブリケ、又は刺繍を施した帯にすれば更に美しく、ほゝ笑ましいものとなるばかりでなく、安あがりでもある。

以上は経費の節約を主体に考えたものであるがこのように衣服面の出費を切りつめたのみでも非常に支出の額を減ずることが出来る。

然し行事の総費用に尙相当の出費は免れない。そこでこの行事を前述の如くスムーズに行うためには平常からの心懸が必要となる。その策として子供が誕生したときを期し月額百円乃至百五十円程度の貯蓄を励行すれば三ヶ年後には三千六百円乃至五千円の準備金が出来、一時の負担が軽くなるので従来よりは非常に明るい祝事が出来る。

尙種々工夫して浪費をさけ切りつめて出た余剰の金は子供が社会的に自覚を持つたということを記念する意に於いて、この際社会福祉事業に多少なりとも寄附をするということも一方法で、幼少のときから社会事業の協力に関心をもつという精神を植えつけることにもなり、この行事を一層意義あらしめると思う。

以上この行事を永久に続行するとして、新しいこの行事のあり方について述べて来たのであるが、要はこれの実行である。その実行を動機づけるのは、その人の物の考え方と強い勇氣とである。

人間の生活は常に理想と現実との板ばさみになやみになやみつゞけている。然し古の人はこの板ばさみに苦しみつゞも生活の幸福をあきらめず種々工夫創造して一步步前進して今日を築き上げたのである吾々は祖先たちのこの旺盛な生活意欲に学ばなければならない。それに引きかえ現在の人達は因襲にくつたくしすぎ勇氣に乏しい。そのために古代の人のような独創力の發揮が出来ないのであるまいか。

現在生活改善という言葉でよばれるものは他でなく、こうした人間の向上意欲のあらわれをさすものである。こうした根本的なねらいをはなれて技術的な面のみでは生活の改善とか行事の簡素化というような問題は解決しない。

あとがき

この調査は、その対象を、松江という特定の地域にかぎつたため、その資料も十分でなく、したがつてこれによつて、調査の目的を結論づけることはむづかしい。これはその第一報として、今後の継続調査

により、研究の完成を期するつもりである。

参 考 文 献

- 一、年中行事 図説 民族学研究所
- 一、日本民俗学の研究 柳 田 国 男
- 一、松 江 市 岩 波 文 庫
- 一、農村地域社会の調査 島根県教育研究所

(附 記)

本調査をするに当つて実地調査について御協力下さつた方々に厚く御礼申し上げます。